

【表紙】

【提出書類】	訂正発行登録書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年10月26日
【会社名】	雪印メグミルク株式会社
【英訳名】	MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 雅俊
【本店の所在の場所】	北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区四谷本塩町5番1号
【電話番号】	東京3226局2115番
【事務連絡者氏名】	財務部資金グループ課長 井上 直紀
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	社債
【発行登録書の提出日】	2022年10月26日
【発行登録書の効力発生日】	2022年11月3日
【発行登録書の有効期限】	2024年11月2日
【発行登録番号】	4 - 関東 1
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 20,000百万円
【発行可能額】	20,000百万円 (20,000百万円) (注)発行可能額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額 (下段()書きは発行価額の総額の合計額)に基づき算出しております
【効力停止期間】	該当事項はありません。
【提出理由】	2022年10月26日に提出した発行登録書の記載事項中、「第一部 証券情報 第1 募集要項」の記載について訂正を必要とするため及び「募集又は売出しに関する特別記載事項」を追加するため、本訂正発行登録書を提出します。

【縦覧に供する場所】

雪印メグミルク株式会社東京本社

(東京都新宿区四谷本塩町5番1号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

証券会員制法人札幌証券取引所

(札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1)

【訂正内容】

第一部【証券情報】

第1【募集要項】

<雪印メグミルク株式会社第2回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（グリーンボンド）に関する情報>

1【新規発行社債】

（訂正前）

未定

（訂正後）

本発行登録の発行予定額のうち、金5,000百万円を社債総額とする雪印メグミルク株式会社第2回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（グリーンボンド）（以下「本社債」という。）を、下記の概要にて募集する予定です。

各社債の金額：1億円

発行価格：各社債の金額100円につき金100円

償還期限（予定）：2027年12月以降（5年債）（注）

払込期日（予定）：2022年12月以降（注）

（注）それぞれの具体的な日付は今後決定する予定です。

2【社債の引受け及び社債管理の委託】

（訂正前）

未定

（訂正後）

（1）【社債の引受け】

本社債を取得させる際の引受金融商品取引業者は、次の者を予定しています。

引受人の氏名又は名称	住所
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目9番2号
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

（注）各引受人の引受金額、引受けの条件については、利率の決定日に決定する予定であります。

（2）【社債管理の委託】

該当事項はありません。

3 【新規発行による手取金の使途】

(1) 【新規発行による手取金の額】

(訂正前)

未定

(訂正後)

本社債の払込金額の総額5,000百万円(発行諸費用の概算額は未定)

(2) 【手取金の使途】

(訂正前)

社債償還資金、コマーシャル・ペーパー償還資金、借入金返済資金、投融資資金、設備投資資金及び運転資金に充当する予定であります。

(訂正後)

社債償還資金、コマーシャル・ペーパー償還資金、借入金返済資金、投融資資金、設備投資資金及び運転資金に充当する予定であります。

本社債の発行による手取金は、全額を別記「募集又は売出しに関する特別記載事項」に記載の適格クライテリアを満たすプロジェクトに関連する新規支出またはリファイナンスに充当する予定であります。

「第一部 証券情報」「第2 売出要項」の次に以下の内容を追加します。

【募集又は売出しに関する特別記載事項】

< 雪印メグミルク株式会社第2回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（グリーンボンド）に関する情報 >

グリーンボンドとしての適格性について

当社は、グリーンボンドの発行のために、「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021（注1）」、「グリーンボンドガイドライン2022年版（注2）」に即したグリーンボンド・フレームワーク（以下「本フレームワーク」といいます。）を策定しました。当社は、本フレームワークに対する第三者評価として株式会社格付投資情報センター（R&I）より、本フレームワークが「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021」及び「グリーンボンドガイドライン2022年版」に適合する旨のセカンドオピニオンを取得しております。

（注1）「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021」とは、国際資本市場協会（ICMA）が事務局機能を担う民間団体であるグリーンボンド・ソーシャルボンド原則執行委員会（Green Bond Principles and Social Bond Principles Executive Committee）により策定されているグリーンボンドの発行に係るガイドラインをいい、以下「グリーンボンド原則」といいます。

（注2）「グリーンボンドガイドライン2022年版」とは、グリーンボンドについてグリーンボンド原則との整合性に配慮しつつ、市場関係者の実務担当者がグリーンボンドに関する具体的な対応を検討する際に参考とし得る、具体的な対応の例や我が国の特性に即した解釈を示すことで、グリーンボンドを国内でさらに普及させることを目的に、環境省が2017年3月に策定・公表し、2022年7月に最終改訂したガイドラインをいいます。

グリーンボンド・フレームワークについて

当社は、グリーンボンド発行を目的として、グリーンボンド原則が定める4つの要件（調達資金の用途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポートング）に適合するフレームワークを以下のとおり策定しました。

1. 調達資金の用途

グリーンボンドの発行代わり金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクト（以下、「適格プロジェクト」という。）に関連する新規支出またはリファイナンスに充当する予定です。リファイナンスの場合は、グリーンボンドの発行日から遡って4年以内に行われた設備投資に係る支出、又は1年以内に発生した費用に係る支出を対象とします。

（1）適格クライテリア

グリーンボンド原則 適格カテゴリー及び環境目標	適格クライテリア	SDGs
再生可能エネルギー 環境目標： 気候変動の緩和	ホエイやホエイの有用成分回収工程で発生する副産物のバイオマスをメタンガス化する設備の導入	7. すべてのエネルギーをみんなにそしてクリーンに 13. 気候変動に具体的な対策を
汚染防止と管理 環境目標： 汚染の防止及び管理	廃棄物（汚泥）削減に資する排水処理設備投資	11. 住み続けられるまちづくりを 15. 陸の豊かさを守ろう

<p>天然資源の持続可能な管理・運用</p> <p>環境目標： 天然資源の保全</p>	<p>環境に配慮した原材料への切替えや石油由来プラスチック使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林認証紙など環境に配慮した容器包装、段ボールへの切替え ・認証パーム油への切替え ・バイオマスプラスチックや軽量化した包材への切替え 	<p>15. 陸の豊かさも守ろう</p>
--------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------

(2) グリーンプロジェクトに付随する環境・社会に対するネガティブな効果と対応

グリーンプロジェクトのうちバイオマスのメタンガス化に伴い汚泥の増加が見込まれますが、汚泥乾燥設備の導入により汚泥を乾燥させ、肥料として売却する予定であります。

(3) 除外クライテリア

グリーンボンドの発行代わり金は、下記に関連するプロジェクトには充当しません。

- ・所在国の法令を遵守していない不正な取引、贈収賄・腐敗・恐喝・横領等の不適切な関係
- ・人権・環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

当社財務部がサステナビリティ推進部及び関連部署と協議を行い、適格クライテリアを満たす適格プロジェクトを選定します。グリーンボンドの発行に際し選定された適格プロジェクトについては、代表取締役社長が最終決定します。

3. 調達資金の管理

当社ではグリーンボンドの発行代わり金について、1年毎に当社財務部が内部管理システムを用いて充当状況を管理します。調達資金が適格プロジェクトへ充当されるまでの間は、現金又は現金同等物にて管理します。調達資金は発行から2年以内に充当されることを見込んでいます。

4. レポーティング

(1) 資金充当状況レポーティング

当社は、適格プロジェクトに発行代わり金が全額充当されるまで、発行代わり金の充当状況を年次で、当社ウェブサイト上に開示します。

開示内容は、適格プロジェクト概要、適格カテゴリー単位での資金充当額、発行代わり金の未充当資金額及び充当額全額のうちリファイナンスとして充当された金額です。

なお、発行代わり金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

(2) インパクト・レポーティング

当社は、グリーンボンドの発行代わり金資金が償還されるまでの間、対象事業の概要及び以下の環境効果に関する指標等を、実務上可能な範囲で年次で当社ウェブサイト上に開示します。

適格カテゴリー	環境改善効果
再生可能エネルギー	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
汚染防止と管理	汚泥の削減量 (t)
天然資源の持続可能な管理・運用	環境に配慮した原材料の使用比率 (%) 石油由来のプラスチック削減量 (%)